

令和7年度 柏市町会長等会議報告書



柏市
KASHIWA CITY



はじめに

「課題をチャンスに,変化を力に アイディアの宝庫ここにあり!」をテーマに,第一部は市からのお知らせ,第二部は町会活動の事例発表を実施いたしました。町会同士が身近なテーマで情報共有を図り,どの町会も自分事としてアイディアを共有することで,会場の一体感を生み出すことを目指し開催いたしました。今年は昨年と比較し,全体の時間を30分拡大しており,こちらは昨年第一部の時間が短いことへのご意見を頂戴したため,第一部の時間を拡大いたしました。また,昨年に引き続き会場外ロビーでは,令和6年度柏市地域活動支援補助金(プラス10)を活用された団体のパネル展示を行いました。

会議概要

実施日

令和7年6月21日(土)

場所

アミュゼ柏 クリスタルホール

参加者数

102名

ふるさと協議会会長及び町会・自治会・区長等

※なお,昨年の参加者数は120名

会議内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 第一部 関係部署からのお知らせ
 - (1) 市民生活部 市民活動支援課
 - (2) 福祉部 福祉政策課
 - (3) 市民生活部 消費生活センター
 - (4) 危機管理部 防災安全課
- 4 第二部 事例発表
 - (1) 町会行事の外部委託
 - (2) ICT化による課題解決
 - (3) インタビューコーナー『教えて!プラス10補助金活用術』
- 5 閉会



市長挨拶

日頃から地域コミュニティの維持・活性化に多大なるご尽力を賜り、ありがとうございます。柏市では令和7年度を開始年度とする第六次総合計画を策定しました。柏市が目指す将来の姿を「柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち」と定め、柏市の更なる発展に向けて取り組んでまいりたいと考えております。



今、私たちの社会は急速に変化しており、少子高齢化やライフスタイルの多様化が進む中で、町会加入率の低下や担い手不足などの地域の課題も複雑多様化しているものと認識しております。そうした中での町会等の皆様方の活動は私たちの暮らしを支える大きな土台であり、行政だけでは到底行き届かない部分を力強く支えていただいておりますこと、市としても大変心強く感じているところでございます。皆様方には引き続き、柏の街を支えるものとして、また、地域活動の頼もしい担い手として、格別のお力添えを賜りますことを、お願い申し上げます。

第一部「関係部署からのお知らせ」

市民活動支援課「市民活動支援課からのお知らせ」



市民活動支援課長 橋爪

市からお願いしている事項

- ① 行政連絡資料の配布・回覧・掲示
- ② 各種委員の推薦
- ③ 防火及び防犯の推進
- ④ ごみ集積所の管理と資源回収
- ⑤ 共同募金等への協力

町会等への支援事業

- ① 市民活動災害補償保険
- ② ICT活用講座

行政連絡を通じて市からお願いさせていただいている事項や、行政連絡業務交付金をはじめとした各種補助金、町会等活動への支援事業について説明いたしました。

また、契約満了を目前に控えたリース防犯灯の取扱いや今年度からの新規事業（ICT活用促進事業）についても周知いたしました。

各種補助金等

- ① 行政連絡業務交付金
- ② 防犯灯補助金（維持・設置・修繕）
- ③ 自主防災組織設立補助金
- ④ 掲示板補助金（設置・修繕）
- ⑤ ふるさとセンター整備事業補助金
- ⑥ 資源回収報償金
- ⑦ 地域活動支援補助金（プラス10）

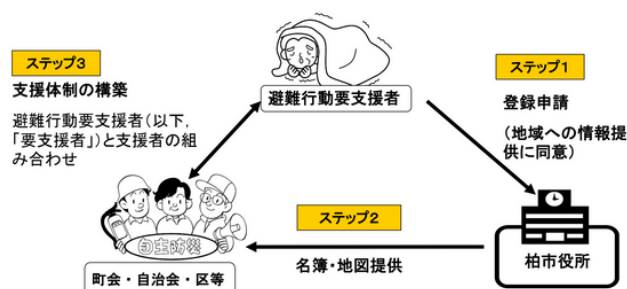
福祉政策課

「防災福祉K-Netの概要・今後のスケジュール及び 民生委員・児童委員の推薦について」

福祉政策課から町会・自治会・区等の皆様をお願いしていることとして「防災福祉K-Net」と「民生委員・児童委員の推薦」がございます。日頃からご負担をお掛けし大変申し訳ございませんが、両者の概要について説明いたしました。

防災福祉K-Netについて

防災福祉K-Netとは、災害時、ひとりでの避難が困難な方について、地域の皆様の協力により、安否の確認や避難支援を行う、住民相互の助け合い、共助の制度です。



福祉政策課長 渡邊

支援者が義務や責任を負うものではありませんが、震度5強以上の地震の際は、安否確認にご協力いただきますようお願いいたします。



福祉政策課副主幹 倉知

民生委員・児童委員の推薦について

民生委員・児童委員は地域福祉を支援する大変重要な役割を担うボランティアであります。

現委員は令和7年11月30日をもって任期満了を迎え、12月1日から新たな任期の委嘱が始まるため委員推薦へのご理解・ご協力をお願いいたしました。

▼町会への依頼内容
推薦書類の提出

消費生活センター

「消費生活コーディネーターについて」

消費生活コーディネーターは昭和63年に始まった制度です。
今回は、消費生活コーディネーターの推薦依頼をさせていただくことに
先立ち、制度の概要等を説明いたしました。



写真右：消費生活センター主幹 太田
写真左：消費生活センター副主幹 田口

消費生活コーディネーターの役割

消費生活コーディネーターの役割は、地域の消費者リーダーとして、消費生活センターに寄せられる最新の消費者トラブル情報を地域のみなさまに伝えることです。



主な活動内容

- ①消費生活センターへの連絡
→地域での相談、情報提供の橋渡し
- ②広報誌等での情報提供
→広報誌の配布、地域イベントでのパネル展示
- ③ミニ講座の実施
→町会の集まりでの悪質商法の手口と対処法等の情報提供
- ④啓発ツールの活用
→ポスター掲示、チラシ配布、声掛け等、地域密着型の啓発活動



お知らせ

11月以降ふるさと協議会の会長に消費生活コーディネーターの推薦依頼をさせていただきますので、町会・自治会・区長の皆様方に、地域の方のご推薦をお願いいたしました。



防災安全課

「防犯灯付き防犯カメラ設置事業」

防災安全課では昨今の犯罪情勢を受けて、市内全域に防犯灯付き防犯カメラ150台の設置を計画しています。町会等にご申請いただくにあたり、事業概要等を説明いたしました。

防犯灯付き防犯カメラ設置事業概要

- ・防犯灯と防犯カメラが一体となった機器の設置
- ・設置した柱の真下を照明灯で照らし、同じ場所をカメラで撮影
- ・設置、維持管理、修繕⇒防災安全課で行う
- ・撮影した映像は警察等の捜査機関が刑事訴訟法に基づく照会があった場合のみ閲覧・提供
- ・設置場所の選定は、警察署、各町会からの意見を元に、防犯効果や各地域の設置状況を加味して防災安全課で決定

申請方法

申請数上限：1団体につき1箇所
設置場所：東京電力管理の電柱
※東京電力のシンボルマーク「T」があるプレートを要確認



防災安全課長 長妻

スケジュール

設置場所選定～町会等へ設置可否の連絡（8月末まで）



設置完了（1月下旬～2月下旬予定）
⇒4月から稼働

申請にかかる注意点

- ・リース防犯灯への設置は不可
- ・町会所有の防犯灯に設置する場合は、まず撤去した後に、防犯灯付き防犯カメラを設置



第二部「事例発表」

第二部では町会長等会議のテーマである「課題をチャンスに,変化を力に アイディアの宝庫ここにあり!」をキーワードに,「外部委託」と「ICT化」に焦点を当てた事例発表と,補助金活用団体へのインタビューを実施いたしました。

ファシリテーターは昨年に引き続き,柏市地域協働を考える会の牛島氏が務めました。



ファシリテーター 牛島氏

町会行事の外部委託 ～めじろ台町会の例～

めじろ台町会では夏祭りを外部委託による餅つき大会に変更することで役員の負担軽減に取り組まれました。

今回の発表では,外部委託のメリットだけでなくデメリットも赤裸々に話していただきました。

外部委託により役員の業務負担を減らすことは可能ですが,よりよい町会行事とするには,業務が減った分,他の内容を充実させる必要があるため,「町会として何を優先させるのか」が重要となってくるといふ石川氏の経験談に,会場からは真剣な眼差しが向けられていました。



めじろ台町会 石川氏



発表後には,ファシリテーターの牛島氏と石川氏とでディスカッションを実施。

石川氏は40代であり,現役のサラリーマン。めじろ台町会ではこの世代の会長が続いており,そこにつながるめじろ台町会のきっかけづくりや,そんなきっかけ作りのためにはなにごとにも試してみることが大事である,という町会活動が前向きに捉えられるようなディスカッションを実施いたしました。

ICT化による課題解決 ～日の出町会の例～



日の出町会 中村会長

日の出町会では、掲示板がまわりきるのに時間がかかり、時にはイベント終了後に回覧板が届いてしまい、クレームに発展することもありました。

そこで、プラス10補助金を活用し、町会のアプリを導入することで課題解決に取り組まれました。

“「ICT化」とはよく聞かし、興味はあるけどなかなか始められない……”

参加者の中にはそのような気持ちを抱えている方も少なくなく、中村会長の発表はまさに背中を押すようなきっかけづくりの発表でした。

もちろん前半に発表いただいた石川氏同様、新しいことを取り入れることはいいことだけでなく課題も生まれるもの。回覧板が一度回って終わりではなく、電子回覧によりいつでもどこでも何度でも見られるようになったものの、まだまだ回覧の投稿者が増えない等の課題があり、今ある課題も踏まえて参加者にアイデアを共有いただきました。

こちらも発表後には、ファシリテーターの牛島氏と中村会長でディスカッションを実施。

新しいことを取り入れたことで見えてきた課題に今後どう向き合っていくか、今後もっと利用率を上げていきたいという中村会長の野望等、課題を課題のままにせず、前向きに「チャンスだ!」と捉えている中村会長の考え方を参加者に共有いただきました。



インタビューコーナー『教えて!プラス10補助金活用術』

事例発表内で中村会長が活用されていたプラス10補助金。そんなプラス10補助金を活用している町会は課題解決のために活用されています。今回の町会長等会議では、すべての参加者にとって今後の補助金活用のヒントとなるよう、昨年度プラス10補助金を活用された団体、そして今年度活用される団体に客席インタビューを行いました。

戸張町会(R6プラス10活用)

「ホームページを開設して、町会運営を省力化!」

戸張町会では、プラス10を活用するまではふるさと会館を予約する際に直接会館に出向いて予約しなければならず、来館した際に、予約希望日があいているかどうか判明する状況でしたが、補助金を活用することでネット予約ができるようになりました。



戸張町会 西川会長



松ヶ崎町会(R6,R7プラス10活用)

「(R6)ホームページを地域コミュニケーションのツールに!」&「(R7)利用者みんなで考える、ごみ集積所の考え方!」

令和6年度は世代間のコミュニケーション不足という課題を解決するために、ICT活用による世代間交流に取り組まれ、特に、ICTに強い人材を確保するために、若い世代のボランティアを採用されました。また、令和7年度はごみ集積所ルール向上のための広報活動に補助金を活用されるということでした。

松ヶ崎町会 坂巻会長

富士見町町会(R7プラス10活用)

「地域みんなが楽しめるお祭りにリノベーション!」

富士見町町会では、令和7年度に補助金を活用されます。コロナがあけ、お祭りの内容について模索されていましたが、補助金を活用し、コロナ禍前は盆踊り中心であった富士見町町会盆踊りから、富士見町町会納涼祭に変更し、様々な外部団体と連携することで幅広い世代が楽しめる催しものにリノベーションされる予定ということでした。



富士見町町会 浅子会長

令和6年度地域活動支援補助金(プラス10) 活用団体パネル展示

令和6年度に地域活動支援補助金(プラス10)を活用された9団体にご協力いただき、補助金を活用した活動や取組みを紹介するパネル展示を会場ロビーのホワイエにて実施いたしました。



～ご協力いただいた団体一覧～

- ①松ヶ崎町会 ②戸張町会
- ③新青田町会 ④日の出町会
- ⑤三俣町会 ⑥加賀町会
- ⑦柏市つくしが丘町会
- ⑧サンパセオ新柏アネックス管理組合
- ⑨酒井根四季美自治会

パネル展示は
9/1～9/21まで、
パレット柏
オープンスペース
で展示しております。
お近くにお越しの際は、
ぜひお立ち寄りください。

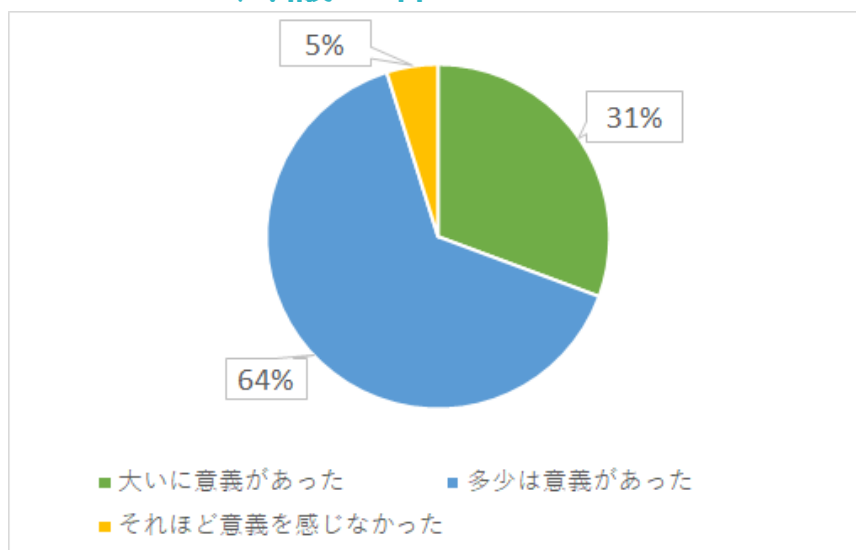


個別相談会

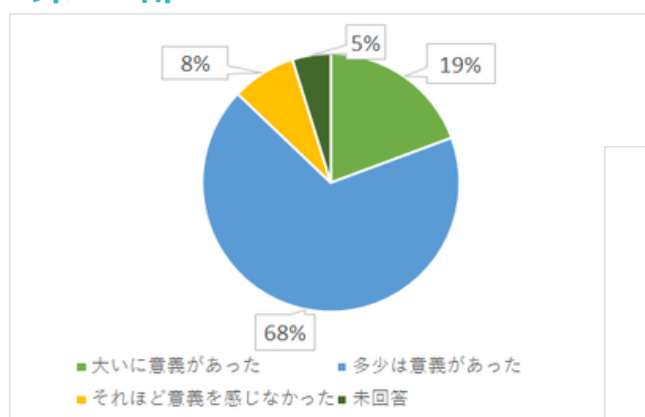
会議終了後、第一部に登壇した部署だけでなく、例年の会議等で会長の皆様から問い合わせの多い部署もブースに待機し、個別相談ブースを設けさせていただきました。

開催後のアンケート集計結果

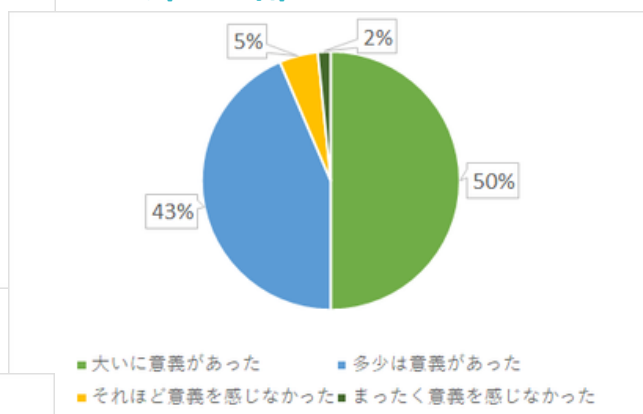
会議全体について



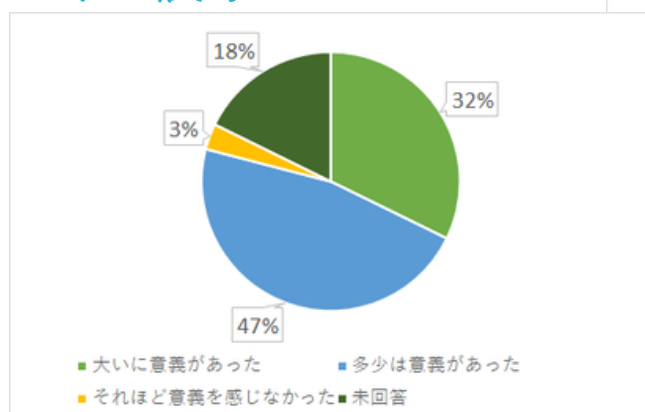
第一部



第二部



パネル展示



アンケート回答数 62件

アンケート回答率 60%

今後も皆様の満足度を高められるような会議を目指してまいります。
町会長等会議にご協力いただきました皆様、
ならびにご来場いただきました皆様、ありがとうございました。